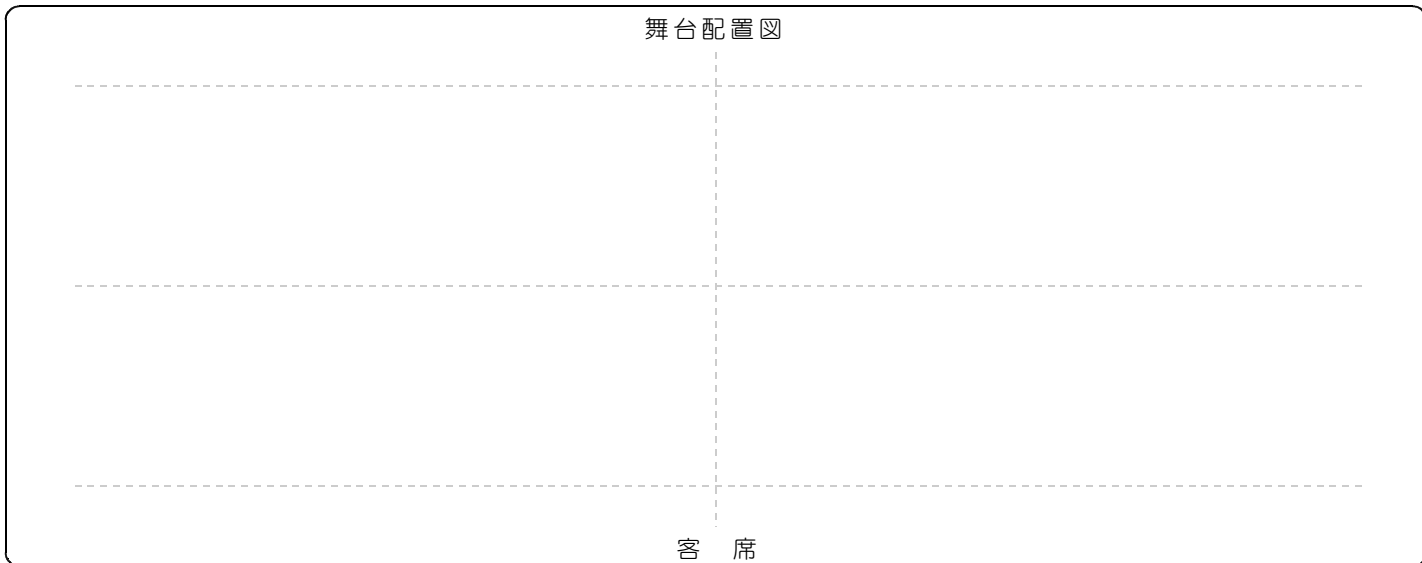


No.	水 面	演奏者数	演奏時間
-----	------------	------	------

舞台配置図



客 席

表示記号一覧	一 箏	= 17絃	+ 三絃	0 尺八	≠ 他楽器	* マイク	□ モニター	□ 毛氈	W 屏風
立 奏	立奏台	大 台	小 台	椅子	大 台	小 台	譜面台	台	ハイター 枚
座 奏	琴台	台	見台	台	山台	録音 有：無	録画 有：無	他	
始	緞帳：暗転	板付	毛氈 緋：紺	音響					
終	緞帳：暗転	板付	屏風 金：銀	照明					

調絃表	ピッチ A=44										編成：1箏			2箏		
Part	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	斗	為	巾			
1 箏	C	G	G#	C	D	F	G	G#	C	D	F	G	G#	本雲井より六斗一音↑ 一は四の乙 五=D		
2 箏	G	D	F	G	G#	C	D	F	G	G#	C	D	F	平より三八巾半音↑ 五十半音↓ 四六九斗一音↑ 一は四と同音		

編成欄には面数を記入 開始調絃は太字 転調は上下の欄 ハーモニックスは右肩に○

作曲年 1957年 委嘱者 一 構成 箏 I・II 時間 7分 出版楽譜 前川出版

解説 この曲は初め「二面の箏の為の練習曲」として書かれたものであるが、のちにこの表題が用いられるようになった。この曲の持っている旋律やリズムを水面に騒ぐ波紋や光の反射に重ねてえがくのも一興であろう。1957年6月作曲。[作曲者] 収録媒体 箏 沢井忠夫作品集1 (VZCG-578)